

**放送日** 平成28年12月1日(木)  
**担当者** 建設部都市整備課 主査 小松 輝久

おはようございます。建設部都市整備課緑化推進担当主査の小松です。

私からは、担当しています緑化事業の中から森林保全に関するお話をいたします。

現在市が保有する森林は約902haあり、行政面積の約7.5%にあたります。その大半は人工林で仁別三島地区に集中し、その面積は約700haで、市が保有する森林の約8割を占めています。

森林は本来、自己再生能力があり自然に世代交代がなされますが、人工林の場合は放っておくと樹木が密集し風通しが悪く、また日差しが届かず、木々は日差しを求め上へ上へと細く伸び、病気や立枯れが発生し、台風などに耐えることが出来ず、倒木などによる森林崩壊の原因となっています。

従って、風害に強く保水力の高い健全な森林を保全するため、適度な間伐など実施していくことが大切です。

この仁別三島地区の市有林は、平成11年頃にゴルフ場などリゾート開発を目的に企業が所有していましたが、自然環境保全や不健全な土地利用の防止の観点から市が取得し、水源涵養保安林として保全しています。

また、この森林は地図等に記載はありませんが、登山愛好家にしられる北広山を形成しています。この山は恵庭市にまたがる島松山の一部で、南斜面は陸上自衛隊の敷地で立入制限されており、その手前で標高492.9mを山頂として位置付けています。

山頂からは、市の中心部はもちろん、札幌市から樽前山、運が良ければ太平洋を望むことが出来ます。来春の木々の葉がまだ生い茂る前の見通しが良い時期に。片道約40分、是非登ってみてはいかがでしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月2日（金）

**担当者** 建設部都市整備課 主査 佐々木 克彦

おはようございます。建設部都市整備課で公園管理と区画整理事業を担当している佐々木です。本日は、区画整理事業についてお話ししたいと思います。

まず初めに区画整理事業とは、「道路、公園、下水道等の都市施設の整備を行いながら、宅地を再配置して、新たな街並みの形成や既成市街地の再整備を行う「まちづくり」の手法で、都市整備上最も中心的な事業です。」当市においては、昭和46年度から実施した「広島町駅前地区」をはじめ、平成27年度に清算業務が完了した「北広島市大曲幸地区」まで、実に13地区で、この土地区画整理事業を実施してきました。

具体的には、現在の新富町、稲穂町、朝日町、美沢、共栄町、虹ヶ丘そして西の里、大曲、輪厚の一部が区画整理事業により作られた街です。中でも、平成元年から実施された「北広島駅前地区」は、施行前は農協倉庫が立並び、とても駅前という風景ではなかったのですが、市制施行を念頭におき個性的で魅力ある街づくりを目指し、エルフィンパークや芸術文化ホール等含め平成17年度に事業が完了しました。また直近では、平成27年度に完了した「北広島市大曲幸地区」があります。こちらは三井アウトレットパークがあり、札幌をはじめ多くのお客様が来店しにぎわいを見せています。

時間が短い中での説明のためご理解しづらいところもあったと思いますが、皆さんもご存じの道営北広島団地の造成や、民間による開発行為等街作りにはいくつかの方法がありますが、今日お話しした計13地区の区画整理事業も、現在の北広島市の形を作る上で大きく貢献したことをご理解いただければと思います。

最後に一言だけ公園管理についてですが、現在市内には224の公園、緑地があり、樹木の成長や遊具等公園施設の老朽化に伴う数多いご要望に対し、優先順位を決め、市民の皆様が安心して利用できる、緑豊かな公園を目指し日々適正な維持管理に努めているところであります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月5日(月)  
**担当者** 建設部建築課 主査 牛島 裕幸

おはようございます。建設部建築工事担当主査の牛島です。

市民の皆様が利用する公共建築物の設計や管理を行なっていて、近年は公共建築物の耐震化、建物の老朽化による建替えや大規模改造が主な業務になっています。そこで今日は、学校のトイレ改修についてお話しします。

学校のトイレと聞くと暗い、くさい、汚いの3Kが思い浮かぶと思います。さらには、怪談話しの花子さんが出てきて子供たちにとっては、行きづらい場所とよく聞くことから、明るく、きれいで清潔かつ省エネを兼ね備えたトイレを目指し改修を行なっています。改修内容としては、これまでの床にジャブジャブ水をかけて掃除するタイプから抗菌性のある床材に張替え、モップや雑巾で拭くドライタイプに変更して、さらに和式便器から一般家庭と同じ洋風便器へ、そして、トルネード方式の節水型に移行してきています、照明は蛍光灯からLEDへ、換気扇も手動から人感センサーにかえて、けし忘れ防止対策や臭気のこもり防止を行なっています、また、手洗器の蛇口は閉め忘れ防止のため一定期間で止まるポップ式蛇口や身だしなみがわかる全面カガミ張を設置しています。

小学校には、ベビーベット設置や小さい子と一緒に入れる車椅子対応型多目的便所や中学校の女性トイレには水の流す音が流れる、擬音装置の設置、近年では、人感センサーを使用し長時間使用が無い場合電源がオフになる機能を備えた暖房便座も設置していますので、皆さんが学校に通っていた時より数段に変わっていると思いますので、ぜひ学校に訪れたときは、トイレを使用してみてください。もしかしたら、また小中学生に戻りたいと思うかもしれませんよ。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月6日(火)  
**担当者** 建設部建築課 主査 嘉屋 康夫

おはようございます。建築課建築工事担当主査の嘉屋です。営繕工事の設計・監理を担当しています。

今、世の中は建物の大量供給時代が終わり、これまでのストックを長く適正に維持するとともに、環境に配慮した建物を計画することを要請されています。

建物を定期的に専門家に頼んでチェックしたことがありますか？建物は車と同じように、年数が経つにつれて傷んだり、使い難くなったり、また無駄な出費がかさむこととなります。

建物のライフサイクルを考えると、概ね25年から30年でリニューアル時期を迎え、その時点で建物にどのような機能性、社会性をもたせ、資産価値の向上を図るかが重要なポイントとなります。そして、適宜、補修・改修を行うことによって、機能性などを確保し、長期間使い続けることが可能になります。

今日ITなど設備関連技術の著しい進歩に伴い、情報通信設備、電源設備や冷暖房設備など 建物の基幹とも言える設備は年々複雑に、且つ高度化してきており、従来の設備をメンテナンスするだけでは不十分になっております。一方、エネルギーに関しては、省エネ法改正への対応など、その効率的利用が求められる時代となりました。そこで、従来は課題ごとに行われてきた改修を一括して実施することにより、総コストの低減・総工期の短縮を図りながら、今ある建築物の資産価値向上を目指したいと思います。

いよいよ今年最後の月となりました。気が早く12月だけに、仕事も大変かと思いますが、今年最後の月をめいっぱい走りぬけましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月7日(水)  
**担当者** 建設部土木事務所 主査 吉川 進

おはようございます。土木事務所管理担当主査の吉川です。

管理担当の主な業務は、道路や河川用地への占用に関する許認可や開発行為等に伴う協議、また、道路施設の破損により発生した事故対応、関係機関からの調査依頼、市営駐車場の管理など、様々な案件で日々の対応に追われております。現在ありがたい悩みではありますが、市営東西駐車場のカード式駐車台数は満車となり、空き待ちの予約者がいる状況になっていることから、時間利用台数との調整に苦慮しているところです。

さて、ここから私が取り組む小さなまちづくりについてお話したいと思います。

私の住む町内には輪厚川が隣接しており、平成11年頃に北海道で整備が始まり、親水事業として緩やかな法面になりました。草刈りは年1回の実施であったため、雑草は伸びて水と親しめる環境ではありませんでした。すると雑草が伸びかけたころ、近隣に住む草刈機を持った方々4、5人が個々に草刈りを始めました。私もその行為に感動し、草刈隊の一員になりました。

現在では町内会員へ草刈ボランティアを募り、17名で日曜日に河川敷きの草刈りを年4～5回程行うことによって、整備された環境が活かされ、休日には子供や親子連れが虫網で小魚をすくい歓声を上げていたり、釣りを楽しむ姿が見られるようになり、とても嬉しいです。

今後も無理することなく、輪厚川に限らず活動範囲を広げて行きたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にたく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月8日(木)  
**担当者** 建設部建築課 主査 松崎 隆志

おはようございます。建築課建築指導担当主査の松崎です。本日は、私が担当している建築行政についてお話したいと思います。

皆さんは、家を建てるときには建築確認申請を提出し、建築基準法などの法令に適合しなければならないということをご存じだと思います。この建築確認を行うためには、建築主事という国家資格が必要で、この建築主事が所属する公の機関が特定行政庁となることをご存じでしょうか。

建築基準法では、建築主事について、広域自治体である都道府県や人口25万人以上の政令市などには、設置義務がありますが、それ以外の市町村には設置義務はなく任意となっております。

そのため、本州などの市町村の多くは特定行政庁にはなっておらず、建築行政を行っておりません。しかし、私たちの住む北海道は、広域にわたり市町村が存在していることからスムーズな建築行政のため、北海道が、市や町に対し、特定行政庁の権限の一部を持つ限定特定行政庁になる政策を進め、北広島市も昭和53年に限定特定行政庁となりました。ところが、近年、建築主事などの有資格者が退職等で人員の補充が思うよう行えない行政庁がでてきており、道内でも限定特定行政庁を廃止する市町村がでてきました。この要因の一つに、建築主事になるためには、建築基準適合判定資格者検定という国家資格を得なければならず、受験をするためには一級建築士の資格が必要です。その上、合格率も道内では1割程度と決して高くなく難関の試験となります。また、資格を取得したとしてもその後の育成に時間がかかるなど人材育成に課題があります。

しかし、この体制を維持することが、北広島市が描く魅力あるまちづくりを北海道に委ねることなく自らの手で行えるものにつながると考えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月9日（金）  
**担当者** 建設部土木事務所 主査 相花 悟

おはようございます。土木事務所除雪担当主査の相花です。

昨年から除雪担当をしており、いよいよ2回目のシーズンが始まりました。

冬と言えば、大概の人は12月からと思っていると思います。私もその一人です。

近年は気候が変化しておりまして、皆さんもご記憶があると思いますが、昨シーズンは11月24日から25日にかけて市内平均で59cmの降雪があり、北広島市でも近年に無い大雪となりました。今年は、昨年の経験を基に早期の準備に心掛けておりましたが、11月4日に初雪、そして、11月5日から6日にかけて、大曲・輪厚地区では累計降雪量が43cmを記録しその対応に追われたところでした。

北広島市の過去10年間の平均降雪量は、約4m60cmで、ここ2年間は平均値を下回る少雪となりましたが、昨シーズンは明け方の午前2時、3時から強く雪が降ることがあり、通勤通学時までの限られた時間の中で、どのような除雪の仕方が効果的か判断に苦慮したところであります。

このような異常気象は、冬期間だけではなく、夏場にも見受けられました。今年の8月には観測史上初の1週間に3つの台風が北海道を通過し、局地的に大雨を降らせ石狩川などの河川が氾濫し、北海道の農産業等に大打撃を与えました。

また、国道274号の日勝峠周辺の道路施設も壊滅的な被害を受け、復旧に時間がかかると聞いております。

今後は、刻々と変化する気象に注意を払いながら、業務を行ってまいりたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月12日(月)  
**担当者** 建設部土木事務所 主査 松本 直樹

おはようございます。土木事務所道路担当主査の松本直樹です。

土木事務所では、市内の市道及び河川などの維持管理業務を行っており、その中でも道路の補修、道路照明灯や街路樹などの施設管理業務を担当しております。

市内の市道総延長は約408kmあり、これに附帯する道路照明灯は約2,100灯、街路樹は約2万7千本あります。

いずれにおいても施設の老朽化が進んでおり、幹線道路や生活道路の良好な通行空間を保つため、市道の適切な維持管理、計画的な補修を行っております。

道路パトロールにより危険な箇所を適宜、補修しておりますが、すべての状況を把握し補修することは困難であることから、職員の皆さんが通勤時や外勤された時に、市内の道路施設に対し、ちょっとだけ目を向けて頂き、ささいな事でも破損や危険と思われる事があれば土木事務所まで一報いただければと思います。

皆さんのご協力により、きめ細やかな維持管理に努め、事故防止につなげて行きたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

今年の春先から降雪時期までの期間で、市民の皆様から頂いた道路施設に対する要望等は、約800件ありましたが、それらのすべての要望に応じることは難しいことから、出来る事、出来ない事を丁寧に説明するよう心がけて対応しております。

限られた財源の中、出来る範囲で効果的な補修を行うことで、少しでも快適な道路環境につながるよう日々、業務を行って行きたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。



**放送日** 平成28年12月13日(火)  
**担当者** 建設部土木事務所 主査 山下 知芳

おはようございます。土木事務所主査の山下です。

皆様は橋について興味や関心を抱いたことがあるでしょうか？橋は主に人や車が川などを乗り越えるための施設ですが、景観や技術の優れた橋は、室蘭市の白鳥大橋のように、地域のランドマークになることがあります。また、他の国では世界遺産に登録された橋もあり、その国の文化や芸術を代表することもあります。

当市において、そのような橋はありませんが、縁の下の力持ちのような橋があります。北海道の大動脈とも言えるJR千歳線と道央自動車道が北広島市を縦断していることで、市は多大な経済的恩恵を受けています。しかしながらその反面、地域・地区を分断するというデメリットも生じており、その解消を担う線路や高速道路を跨ぐ橋は、地味ながら重要な役割を果たしていると言えます。

これらの橋は市内の他の橋と同様に、高度経済成長期に集中して整備されているため、今後10年から20年で急速に老朽化していくという課題を抱えています。このため土木事務所では、橋の寿命を延ばすことを目的に、細やかな点検と修繕を行う事業に取り組んでいます。

近い将来、我が国の人口が減り、少子化が加速することで、新たな橋の建設や架け替えは、より困難となっていくでしょう。今ある橋を財産として後世に残していけるよう、健全な橋の維持に努めてまいりたいと思います。

最後に、道路や橋に異変を感じたときはどのようなことでも結構ですので、土木事務所までご連絡をいただければと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月14日(水)  
**担当者** 建設部建築課 主査 林 正明

おはようございます。建築課、住宅管理担当主査の林です。

私が担当している主な業務は、市営住宅の維持管理で、建物の修繕はもとより、入居者の募集や住宅家賃の通知・徴収、維持管理のための業務委託の契約事務など、業務の中身は多岐に渡ります。

また、市民が住んでいる市有施設であり、そこには住んでいる方々の生活があります。なので、修繕などが必要な場合は、住んでいる方の生活に支障をきたさないよう、迅速に対応できるよう心がけています。しかしながら、住宅管理担当だけでどうこうできるのではなく、住んでいる方はもとより、建築課の技師や業者の方々の協力なくしては円滑に維持することができません。そういった方々には日々感謝です。

さて、現在、共栄町にある市営住宅について、大々的に建替え事業を行っています。古い住宅は、昭和40年代に建てられ、老朽化が著しく設備も現在の基準では充分ではないことから建替えることになり、3年前から工事を実施しています。場所は北の台小学校のすぐそばで、既に1号棟と2号棟が完成しており、今は3号棟を建設しているところです。新しい建物をご覧になった方もいるかと思います。

計画では、平成31年度の5号棟完成をもって全棟の建替えが完了することになっています。長く見慣れた風景が変わっていくのはどことなく寂しく感じますが、住むところは生活の基本となる場所ですから、住宅が新しくなることで、住んでいる方の生活が、より豊かになることを願っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月15日(木)  
**担当者** 経済部農政課 主査 山田 孝博

おはようございます。経済部農政課水田・農業振興担当主査の山田です。

水田・農業振興担当では、市内農業者の方の経営安定のためのさまざまな施策のほか、市内外の方に北広島の農業が市の魅力の一つとして感じてもらえるよう、グリーンツーリズムの推進を行っています。

ところで、皆さんはお米を食べているでしょうか？

寒地稲作発祥の地である北広島市では、現在もお米は主力農産物となっています。当市をエリアとしている道央農協は、近郊4市を対象エリアに農産物を取り扱っているため、量販店などでは北広島市産の農産物を見かける事は少なくなってきましたが、市内では農家の方が経営する直売所もありますので、道央農協で出荷される農産物はもとより、ぜひ北広島市産のお米、また野菜などを楽しんでいただき、地元農業の応援をしていただきたいと思います。この北広島市のお米が平成26年から広島県を中心に中国地方で「北広島市産米ななつぼし」として販売されています。

先日、市内の米農家の方と28年産米の販売PRを広島県内の販売施設で行いました。購入いただいた方からは、とてもおいしいとの声や、お米の購入をきっかけに北広島市に興味を持っていただいていることなど直接お伺いすることができました。このような声が農業者の方の励みになり、よりおいしい農産物の生産につながるものと信じて、生産者、消費者の皆さんが笑顔になれるよう、農政課スタッフ一丸となって業務の遂行に励みたいと考えています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月16日(金)  
**担当者** 経済部農政課 主査 山本 浩幸

おはようございます。経済部農政課農地保全担当主査の山本です。

今年4月から農政課に配属となりました。

農政課では農地に関することから森林に関すること、畜産に関すること、鳥獣対策に関する事など、農地から森林、果ては家畜、鳥獣に至るまで、その業務の幅と深さを改めて実感しております。

また、平成28年度からは排水機場に係る業務が移管されました。

排水機場に係る業務につきましては、移管された最初の年から、台風による、近年、稀に見る大雨の影響により1箇所の排水機場で36時間、2箇所の排水機場においては、89時間(3日間以上)にわたり連続して運転する状況がありました。

この際、市役所に勤めて初めて徹夜で勤務するという経験をさせていただきました。幸いにも「排水路から水が溢れて農作物に被害が及ぶ」ことがなかったことをうれしく思います。

鳥獣被害につきましても、今年はこれまでに無いほどのエゾシカが捕獲され、なぜか、土日及び祝日に集中していました。

農政課の仕事は自然と共に歩み、自然の厳しさを目の当たりにすると同時に自然の恵みを豊かに感じることもできる職場であると感じています。

今後も農地保全の役割を担い、農業を営む方々が効率的に、また、安心して経営できる基盤づくりを目指し、励んでいきたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月19日(月)

**担当者** 経済部観光振興課 主査 青木 潤

おはようございます。経済部観光振興課主査の青木です。

観光振興課では、市内事業者や市民で構成された「きたひろしま都市型観光推進協議会」の運営を行っています。この協議会は何かを決定するものではなく、魅力ある地域資源を上手に活用し観光資源として育まれるよう、構成員皆さんの観光に対する熱い思いを意見交換する場として北広島市の都市型観光の方向性を議論していただいております。平成27年度末には4つの方向性と5つの取り組みが取りまとめられました。

その5つ取り組みの中から「サイクルタウン北広島！」についてお話ししたいと思います。近年、自転車を活用したサイクルツーリズムは瀬戸内しまなみ海道をはじめ日本各地で盛り上がりを見せております。北広島市でも市内のグルメや歴史を楽しめる「ツール・ド・キタヒロ」の開催や、サイクリングを疑似体験できるVR動画を活用したプロモーション活動、訪日外国人観光客向けに台湾での商談会など、サイクルツーリズムの推進に取り組んでいます。サイクルツーリズムは一つの行政区域では収まらないことから、道央や空知方面への広域観光の拠点「サイクリストゲートウェイ」として北広島市の可能性があるのではないのでしょうか。また、一部の愛好家だけではなく市民や一般の観光客にもサイクリングに親しんでもらえるサイクリングフレンドリーのまちとしてスタートしてほしいと望んでいます。

私は10年ほど前、観光業界で働いていましたが、その時の流行や政治・社会情勢に大きく左右される業界です。また、何が正解なのかもやってみないとわからないケースが多々あります。しかし、時代と共に求められるモノが変化しそれに対して行う結果が今後北広島市の観光として育まれることと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

また、現在エルフィンパーク交流広場では26日まで芸術文化ホール前広場では来月末まで毎日午後10時頃までイルミネーションの点灯を行っています。勤務時間終了後お時間がありましたら皆さんで是非お出掛け下さい。

**放送日** 平成28年12月20日(火)

**担当者** 経済部産業振興室商工業振興課 主査 宮本 大介

おはようございます。経済部産業振興室商工業振興課主査の宮本です。

皆さんは今日が何の日かご存知でしょうか？西暦753年の今日、当時の唐、現在の中国から鑑真という僧侶が足掛け10年、6度目の挑戦にしてようやく日本に辿りついた日と言われております。当時、日本では勝手に僧侶となることが出来、また僧侶になると納税の義務が免除となったことから「にわか僧侶」が爆発的に増えたと言われております。当然、納税免除のために僧侶になるような人ですから、仏教に傾倒しているわけでも無く、教義も何も知らないわけです。当時の仏教界は乱れに乱れていたと言われております。朝廷はこれを憂慮し、僧になるには厳しい戒律を定めていた唐から高僧を招き、日本でも僧となる資格を授ける戒律を定めようとなりました。そこで日本に渡る事となったのが鑑真です。

当時、海を渡るのは命がけ、さらに唐は国民の出国を原則禁じており、特に鑑真は当時の唐皇帝がその人徳を高く評価していたので、出国するとしたら密出国しか方法はありません。このような様々な苦難を乗り越え、さらには過酷な航海で失明し光を失いながらも信念で日本にたどり着いた鑑真。朝廷より僧侶の最高位「大僧都」に任命され、その後日本の仏教界は劇的に改善されたのでした。めでたしめでたし…となるはずでした。しかしながら、朝廷の思惑は無駄な僧侶を省いて税収を上げることが第一義、鑑真の目指した日本における仏教の隆盛とは大違い。結局は「大僧都」を解任され、自分の理想と朝廷の意向との差に悩みます。その後は有名な「唐招提寺」において独自に布教や難民孤児の救済活動を続け、75歳でその生涯を閉じました。

我々も北広島市に奉職する際に高い理想を掲げていました。鑑真のように何度も挑み、職員になった方もいらっしゃると思います。しかしながら理想とその現実の差に少なからずくじけた事もあるかもしれません。そんなことがあったとしても、我々の行う職務に変わりはありません。いや、あってはならないのです。何か壁に突き当たったとき、入庁したときの気持ちを思い返し、原点に戻る。そして当時の情熱を思い起こすことも時として必要なのかもしれません。両目の光を失っても、また職務を追われてもなお布教に努めた鑑真のように。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月21日(水)

**担当者** 経済部産業振興室商工業振興課 主査 笹原 拓己

おはようございます。経済部産業振興室商工業振興課主査の笹原拓己です。

私の担当する業務は、工業振興、企業誘致、雇用、労働であると共に、土地開発公社の業務係長も併任しており、輪厚工業団地の販売や工事の発注・監督などと多岐に渡っています。

私は入庁し25年目となりますが、その半分以上は道路を造る、守ることに携わって来ました。昨年4月に、工業振興課に異動となり、これまで経験の無い企業誘致や工業団地販売業務などでは、企業の代表者や役員の方などと接する事が多く、最初は緊張の連続でした。

また今年度は、本市が初めて行う女性に特化した雇用事業で、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一環として、安心して子どもを産み育て、仕事と家庭の両立支援を目的とした、「働きたい女性のための再就職支援事業」と「働きたい女性のための企業合同雇用促進事業」を行っています。この業務を行う中で、結婚・出産などで離職した女性の中にも、労働意欲の高い方が市内に大勢いることを実感しました。この方々が就職することで、近年の労働力不足解消の一助となればと思います。

市内では来春から夏にかけて新たに創業する企業が幾つかあります。企業を誘致し雇用が確保され、創業後は地域に根付く企業になっていただければと思います。私も出来る限りの支援などを行っていきます。

そして、輪厚工業団地販売についてですが、開始から約4年で処分率92%となりました。前の部署である都市計画課では、ここを市街化区域編入の手続きを2年近くかけて行いました。その時は、ここで工業団地を造って売れるのか半信半疑でした。今後はもしかすると、販売完了の瞬間に立ちあえるかもしれません。何か不思議な縁を感じています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年12月22日(木)

**担当者** 経済部産業振興室商工業振興課 主査 庄司 直義

おはようございます。商工業振興課主査の庄司です。

今日は、私が担当しております企業誘致について、お話させていただきます。

企業誘致というと、工業団地を造成し、企業へ土地を分譲するといったものを想像されるかと思います。

しかし、実際の誘致活動は、立地を検討している企業などの情報収集から始まり、検討企業への訪問を重ねながら「新たな事業の計画」や「土地・建物の規模」、「どのくらいの人材が必要なのか」などを伺い、検討に必要な提案を繰り返し、最終的に、本市に立地を決めて頂けるよう、進めているところであります。

一つの企業が立地に至るまでは、とても長い道のりではありますが、企業担当者から「北広島市に決めました」と言われた時がとても嬉しく感じるところであります。

また、立地後においても、職員が一元的な窓口となって、立地企業のフォローアップを行っております。

具体的には、ハローワークとの連携・協力による人材紹介、合同企業説明会や教育機関の紹介などの人材確保支援をはじめ、従業員向けに「まちの生活情報」を提供するなど、企業の取り組みを幅広くサポートしているところであります。

その結果、立地企業から「北広島市に立地して良かった」と思ってもらえるよう、きめ細やかな対応で支援して行きたいと考えております。

現在、土地開発公社が実施しております輪厚工業団地は92%まで分譲が進んでおります。

引き続き、早期完売を目指して努めてまいりたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。



**放送日** 平成28年12月26日(月)

**担当者** 経済部産業振興室商工業振興課 主査 児玉 正輝

おはようございます。経済部商工業振興課主査の児玉正輝です。

私は、北広島市職員として都市計画業務を含め、まちづくりに関する業務に30年以上携わってきました。北広島市のまちづくりを進めるにあたり、特に念頭においたことは、めざす都市像をどのように実現していくのかということ、そのために市民の声をどのように反映させていくのか、そしてまちづくりの専門家の知識・見識等をいかに活用するのかなどであり、「緑豊かで良好な住環境を持つ北広島市を選んでよかったと思われる街を創ろう」ということでした。

しかし、自分の能力には限界があります。いろいろな意味で意識の高い市民の力を活用することは必要なことでした。そのためには、積極的に市民の中に飛び込んでいくこと、そして取り入れるものは取り入れるという姿勢を持つこと、また、市民と対等に話しができるためには自分の資質や専門的能力を高めることが不可欠であり、その努力を怠らないことであったと思います。そうすることによって、市民との間に信頼関係が生まれ、行政の推進に理解・協力を得られると共に、困った時には逆に市民が助けてくれるということに繋がります。

私が担当した駅前のまちづくりにおいてもそのようなことがありました。

市制施行の記念事業として取組んだJR北広島駅前の中心施設に、「文化施設(ホールと図書館)」を建設し、北広島市の玄関口にふさわしい風格のある都市づくりを目指したとの計画が立案されました。「なぜ駅前の一等地に文化施設なのか？」ということに対して、市民や議会、庁舎内の関係部局などとの様々な議論の結果、通勤・通学など日常的に多くの市民が集まる駅前には市民共有の場であり、駅前にこそ市民待望の施設である文化施設こそがふさわしいとの合意形成が成され、それが実現しました。

当時の駅前開発では商業施設を配置するのが一般的な発想でしたが、北広島市民は、そこには未来に繋がる市民共有の財産を作ることが最も望ましいとの判断に至りました。市制施行を迎える新生北広島市の玄関口にふさわしい、市民として誇れる街を創るという市民の方々の熱意の結晶であると考えています。

先日、芸術文化ホールで未来を担う子供達が元気に楽しく踊り、活動している催し物を見る機会がありました。建設から約20年が経過して、市民に愛される施設として活発に利用されていることを実感し、市民と共に育ち、喜ばれる施設になっていることを誇りに思いました。市民の将来を見据えた英断に心から感謝しています。

私が30~40代のころは、右肩上がりの経済環境であり、「夢を描ける」時代でした。しかし、今は人口減少社会であり右肩下がりの社会経済環境です。こういう時代だからこそ若い職員は、自分の仕事に熱意や情熱を持って取組み、市民の中に積極的に飛び込んで行き、「北広島市を選んで住んでいる市民に喜んでもらえる」まちづくりに取組んでいただきたいと思います。

これからの北広島市の行政の推進に前向きな、そして市民と共にまちづくりに取組む気概を持つ職員が増えることを期待しています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。